

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

(仮称)全国お菓子めぐり館

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	内 訳				
■ 1. 「地球温暖化対策」の推進					
1.1 建物の熱負荷抑制					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能	
	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制			
小計					
1.2 自然エネルギーの利用					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用		
昼光利用設備(採光屋根)を採用している。	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用		
小計					
1.3 設備システムの高効率化					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化			
小計					
1.4 設備システムの効率的運用					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング		
昼光利用設備(採光屋根)を採用している。	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制		
小計					
1.5 資源・マテリアル対策					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水		
ハロン消火剤を一切使用していない。	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無	
リサイクル可能な鉄板基礎を採用している。	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無	
	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減		
	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用		
	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		
	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材		
	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		
小計					
1.6 ライフサイクルCO2排出率					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮			
小計					
1. 「地球温暖化対策」の推進の評価					
■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進					
2.1 温熱環境の向上					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出			
メインゲート前に待機・待ち合わせ空間を確保している。	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上		
敷地内の舗装面積を小さくするよう努めている。	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善		
小計					
2.2 交通負荷抑制					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制	
適切な量の自転車置場を確保している。					
小計					
2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価					
■ 3. 「長寿命化対策」の推進					
3.1 耐用性の向上					
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性	
	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 先進・制振性能	
	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数	
	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	
	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	
	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔	
小計					
3.2 設備の更新性					
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	
構造部材を傷めることなく電気配線の更新・修繕ができる。	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性	
	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性	
	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性	
	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性	
	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース	
小計					
3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)					
■ 重点項目の総平均(上記3項目)					